



## エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

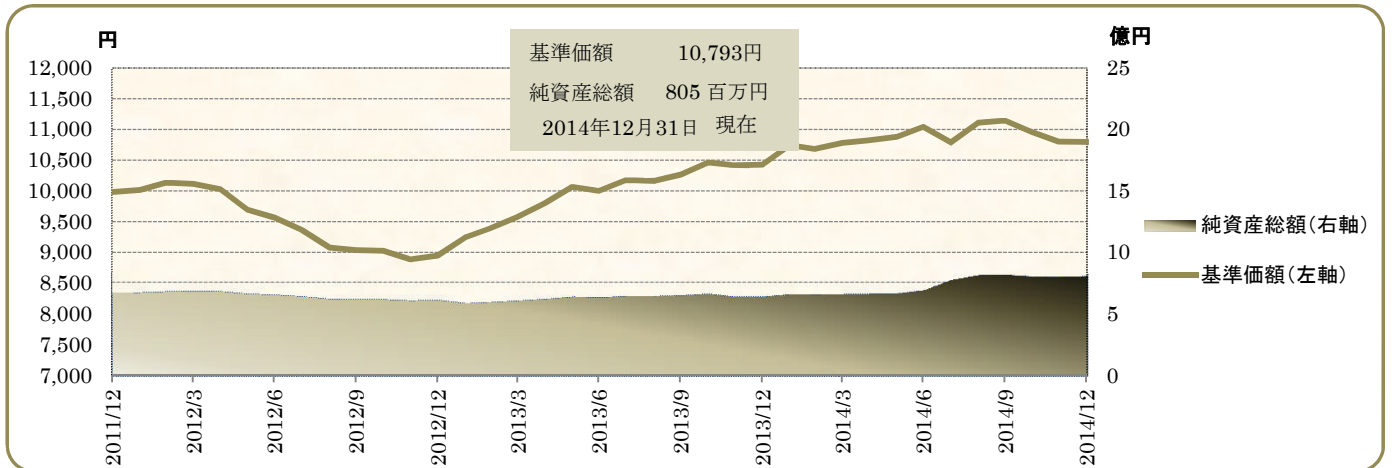
ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2014年12月31日

## 基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

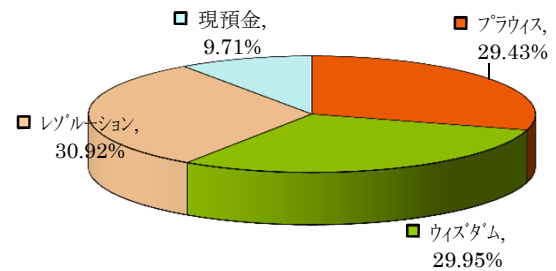
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.05%	-0.55%	0.89%	0.41%	0.55%	1.48%	-2.27%	2.94%	0.34%	-1.73%	-1.44%	-0.02%	3.54%
2013	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.32%	1.57%	2.01%	2.27%	2.77%	-0.68%	1.80%	-0.18%	1.03%	1.91%	-0.43%	0.08%	16.51%
2012	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	0.28%	1.22%	-0.21%	-0.83%	-3.36%	-1.32%	-2.12%	-3.02%	-0.45%	-0.17%	-1.51%	0.66%	-10.40%



## 運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673百万円	
基準日:	2014年12月31日	
基準価額:	10,793円	対前月比 -2円
純資産総額:	805百万円	対前月比 +7.8百万円
設定来高値:	11,146円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	-3.17%
基準価額騰落率	6ヶ月	-2.26%
設定来	ファンド	7.93%
基準価額騰落率	TOPIX	94.53%
	日経平均	107.70%

## 投資対象ファンドへの資産配分 (2014年12月31日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

## 投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月*	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	2.24%	-0.37%	0.41%	1.08%	0.88%	2.08%	-0.16%	-0.32%	1.01%	-0.04%	-0.24%	-1.41%	5.22%
ウィズダム	0.94%	-0.06%	0.36%	0.81%	0.50%	1.06%	-0.30%	1.17%	0.46%	-0.04%	0.03%	0.33%	5.38%
レゾリューション	6.74%	-0.06%	2.94%	0.52%	1.36%	2.63%	-2.53%	5.02%	1.61%	-3.52%	-0.75%	2.09%	16.76%
アドバンスド	3.59%	1.01%	0.60%	2.15%	1.23%	2.72%	-1.24%	3.30%	-0.11%	0.03%	-0.40%	1.06%	14.71%
バリエーション	7.64%	0.92%	3.59%	3.63%	1.89%	5.28%	-2.17%	2.07%	0.65%	-0.96%	-2.24%	-1.19%	20.27%
2013	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	2.93%	1.07%	1.65%	3.95%	3.00%	-0.09%	1.11%	-0.32%	0.23%	0.95%	-1.04%	-0.06%	14.08%
ウィズダム	2.59%	2.09%	0.71%	2.09%	2.03%	1.19%	1.36%	0.44%	1.06%	0.73%	-0.15%	-0.01%	15.05%
レゾリューション	5.82%	2.76%	4.78%	2.00%	4.83%	-1.97%	4.08%	0.46%	2.94%	4.90%	1.06%	1.46%	38.27%
アドバンスド	7.06%	6.89%	2.79%	6.39%	5.21%	4.71%	4.15%	0.84%	1.20%	1.91%	-2.71%	1.61%	47.65%
バリエーション	11.36%	2.57%	1.43%	14.44%	7.46%	1.93%	3.77%	0.67%	0.51%	3.33%	-5.39%	3.07%	53.66%

\* 上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1(以下「HFS」という)にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。

\* バリエーションの騰落率は、2014年6月以前はJPY-Sクラス、2014年7月以降はJPY-Fクラスの騰落率です。アドバンスドの騰落率は、2014年6月以前及び2014年12月以降はJPY-Sクラス、2014年7月～11月はJPY-Fクラスの騰落率です。年初来の収益率は月次収益率を時間加重したものです。



# エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

## 相場動向

12月の株式相場は、日経平均で0.05%下落の17,450.77円、TOPIXで0.20%下落の1,407.51ptとなりました。前半は大きく下げましたが、後半に持ち直す、往って来いの展開となりました。

上旬は、海外株高、円安進行を受け外需株などを中心に上昇傾向となりました。日経平均は8日の取引時間中に約7年4か月ぶりに一時18,000円台に達し、為替市場でも一時1ドル121円台後半まで円安ドル高が進みました。

中旬は、原油安やルーブルの急落から世界的にリスクオフの展開となりました。衆院選で与党が大勝しましたが事前予想通りで反発のきっかけにならず、日経平均は16,600円台まで大きく下落しました。

下旬は、17日まで行われた米FOMC後に発表された声明文が、米国景気に配慮した内容であったと捉えられて米国株が大幅に上昇、日本株も反発に転じました。日経平均は17,900円台まで反発しましたが、月末にかけてはギリシャの政情不安などを受けて伸び悩み、結局前月比はほぼ変わらずで取引を終えました。

東証一部の売買代金は、海外投資家の参加が少なくなるクリスマスまでは連日で2兆円を超える高水準でした。

需給面では12月第1-3週で、海外投資家が2か月連続の買い越し、信託銀行は8か月連続の買い越しとなりました。売り越しは証券会社の自己部門でした。

セクター別騰落率では、鉱業、石油・石炭製品、保険、サービスが上位となり、情報・通信、その他金融、食料品、不動産が下位となりました。

## 組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

### 【プライス】

#### ＜ファンド運用状況＞

12月の運用成績はJPYクラスで-1.41%となりました。マイナスの要因として①12月上旬にショートしていた化学株が業績見通しの引き上げにより急騰したこと、②ポジション金額が大きい機械や食品株のペイトレードのパフォーマンスが悪かったこと、③原油価格の急落により、その関連銘柄のロングポジションの損失が大きかったことがあげられます。

セクター別の損益は陸運、非鉄金属セクターでプラスとなり、化学、機械、食品、小売りセクターでマイナスとなりました。

### 【ウィズダム】

#### ＜ファンド運用状況＞

12月の運用成績はJPY-Fクラスで+0.33%でした。海外投資家が先物市場で日本株を大幅に売り越すなど物色動向に方向感の出ない相場展開の中、小型割安株がアウトパフォーマンスしたことでプラス収益となりました。

個別銘柄レベルでは、ロングポジションではドンキホーテHB(7532)、電通(4324)、ショートポジションでは太陽日酸(4091)、日本取引所グループ(8697)がプラス収益に寄与しました。

### 【レゾリューション】

#### ＜ファンド運用状況＞

12月の株式市場は、4ヶ月ぶりに小型株優位の展開となりました。

外部環境の不透明感から株式市場は不安定となり、高ROE株、高PBR株、低位株、高信用リスク株などが下落しました。

ポートフォリオは、情報通信、医薬、サービスなどのセクターをオーバーウェイトし、小売、食品セクターをアンダーウェイトしました。また、小型株ロング、大型株ショートの状態を維持しました。

事業戦略の裏付けから業績好調なアウトソーシング(2427)などのロングや、内需系の一部高バリュエーション銘柄のショートがプラス寄与となりました。一方で、テクノロジー銘柄のロングがマイナス寄与となりました。

全体として、業績モメンタムが維持されている割安銘柄のプラス寄与により、パフォーマンスの確保が図られました。

#### ＜今後の市況見通し及び投資戦略＞

1月の株式市場はもみ合いの相場展開を想定します。ギリシャの政局不安や原油価格の急落に伴うリスク回避の動きはあるものの、日銀のETF買いや円安メリット銘柄を中心に業績改善期待が強いことから下値も限定的と考えます。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

#### ＜今後の市況見通し及び投資戦略＞

1月の株式市場は下落を予想します。原油価格下落に伴う産油国経済の悪化やギリシャのユーロ離脱懸念から下値を試す展開を予想します。一方でECB(欧州中央銀行)が量的緩和に踏み込めば一旦はリバウンドも期待されます。

今後の投資戦略につきましては、クオンツモデルとトップアナリストによる投資評価の双方を活用し、銘柄選択により安定的な収益を目指します。

#### ＜今後の市況見通し及び投資戦略＞

外部環境のリスクが意識され、不安定な相場展開となっています。

極端に売買回転率の高い銘柄が買われるような、ファンダメンタルから乖離した値動きが修正されつつあり、割安株を買う動きが少しずつ見られ始めました。季節的な割安株優位の期待はありますが、大型株を中心とした一部の低ボラティリティ銘柄や高ROE銘柄への集中的な物色も落ち着いてくると思われます。

外部環境の不透明感が残りますが、来期を意識した銘柄選択に視点が移ることを想定します。

引き続き、来期業績を考慮した、定性的なプレミアム付与が可能なグロース性を重視した銘柄選別を行います。

業績モメンタムの変化に留意し、継続した業績拡大余地の大きい割安銘柄の組入を行います。

成長力や競争力といった中期的な視点により割安銘柄と割高銘柄の選別を進めます。

## 投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S.(ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティー・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユークイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号 加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 <a href="http://hedgefund-sec.com/">http://hedgefund-sec.com/</a> 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号 加入協会:日本証券業協会



# エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

## 商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

## 当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

## ご留意事項

- 当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。
- 当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。
- 当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。  
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
- 運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

**当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。**

**投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。**